気象に関する参考資料

- 熱中症警戒アラートの活用 -

２０２１年６月
福島地方気象台

◎熱中症警戒アラートの背景と目的

近年、全国的に熱中症搬送者数が著しい増加傾向にあります。
右図に示した、平成28年から令和2年までの福島県内の熱中症による月別救急搬送状況を見ると、7～8月にかけて搬送者数が多いのが特徴となっています。
また平成30年以降、救急搬送者数が1年間で1000人を超える状況となっていて、著しい増加傾向にあることがわかります。
さらに全国では、熱中症による死亡者も近年は増加傾向にあります。

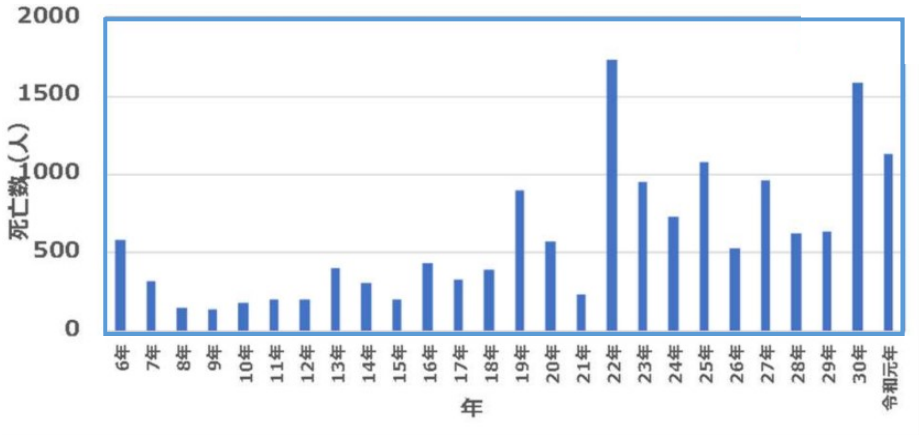
これに対して、気象庁と環境省は、熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境が予測される場合に、暑さへの「気づき」を呼びかけ、国民の熱中症予防行動を効果的に促すことを目的として、「熱中症警戒アラート」を提供することになりました。
また、「熱中症警戒アラート」の提供開始に伴い、高温注意情報の提供は終了しています。

福島県内の熱中症による月別救急搬送状況（人）

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
5月	57	94	56	107	—
6月	58	70	136	72	128
7月	219	478	955	275	100
8月	332	196	491	870	764
9月	71	26	36	111	117

出展：消防庁

全国の熱中症による死亡者数（人）



出展：人口動態統計

熱中症警戒アラートの概要

◎熱中症警戒アラートとは？ 環境省 × 気象庁

環境省・気象庁が新たに提供する、暑さへの「気づき」を呼びかけるための情報。
熱中症の危険性が極めて高くなると予測された際に、危険な暑さへの注意を呼びかけ、 熱中症予防行動をとっていただくよう促すための情報です。

✓ 発表単位
全国を58に分けた府県予報区等を単位として発表
（北海道、鹿児島県、沖縄県を細分化）

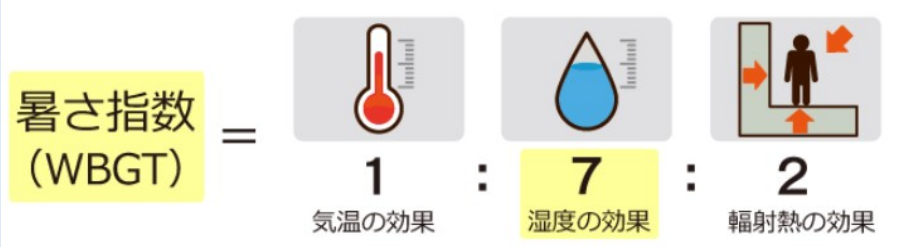
✓ 発表タイミング
前日の17 時及び当日の朝５時に最新の予測値を元に発表
（期間は毎年４月第４水曜日から10月第４水曜日）

✓ 発表基準
発表対象地域内の暑さ指数（WBGT）算出地点のいずれかで 日最高暑さ指数※ 33℃ 以上 と予測した場合に発表

✓ 情報提供サイト
「気象庁ＨＰの熱中症警戒アラートのページアドレス」
https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#element=heat&contents=information

※ 暑さ指数（ＷＢＧＴ）について

人間の熱ﾊﾞﾗﾝｽに影響の大きい **気温 湿度 輻射熱（日差し等）** を取り入れた暑さの厳しさを示す指標です。
暑さ指数の単位は「℃」ですが、気温だけではありません。



✓ 暑さ指数には湿度が大きく影響します

左の図をみると、暑さ指数では湿度による効果が7割を占めています。湿度が高い場所では汗が蒸発しにくいので身体から空気へ熱を放出する能力が減少し、熱中症になりやすくなります。

環境省HPから引用

熱中症警戒アラートが発表されたら？

受け手によって取るべき行動は変わりますが、大事なのは以下に示す行動です。

① 外出はできるだけ控え、暑さを避ける。
② 屋外での運動は原則中止/延期。
③ 普段以上に「熱中症予防行動」を実践する。
④ 暑さ指数（WBGT）を確認する。
⑤ 熱中症リスクが高い方（子ども高齢者、持病のある方、肥満の方、障害者等）に声掛けをする。
⑥ マスクをしているときには、水分・塩分を摂取するなど、熱中症予防についても十分配慮する。

ターゲット（場所）	手段	住民の日常生活・運動における行動例
一般住民 外国人 （公衆、住宅）	防災無線 テレビ他	涼しい部屋に移動し、エアコン等を適切に活用する。**不要、不急の外出を避ける。** 建物や木の陰等の日射を遮れる場所もしくは涼しい屋内に移動する。
高齢者・障害者（住宅）	電話、訪問	部屋ではエアコン等を適切に活用し、定期的に水分・塩分補給を行う。
児童生徒等（学校）	緊急連絡（電話、メール）	学校等は、児童生徒等を涼しい屋内に誘導する。エアコン等が設置されていない屋内及び**屋外での運動**、校外活動等の**中止**・延期等を検討する。必要に応じて、臨時休業の設定等の柔軟な対応をする。
農業従事者（田・畑・樹園地・農業用施設）	防災無線	日中の**気温の高い時間帯の作業**をできるだけ**避ける。** 作業前と作業中の水分・塩分補給やこまめな休憩をこころがける。帽子や吸汗速乾素材の衣類を着用する、屋内作業では送風機やスポットクーラーを利用するなど、熱中症予防に有効な商品を活用する。**単独での作業を避け**、異常がないかお互いに**声を掛け合う。**
労働者（仕事場・工事現場）	緊急連絡（電話、メール）	事業者は、熱中症警戒アラートを受けて、**各現場のWBGT値を再確認の上**、作業時間の短縮や作業内容の**変更等を検討**する。 こまめな休憩及び水分・塩分補給の徹底を図る。